

広島大学総合科学部の卒業生（昭和五十五年入学）、棚田徹さんに「ひろしま満点ママ!!」の収録の後、取材させていただきました。

アナウンサーになった理由は？

とりあえずTVの世界に入りたかった。その中でもアナウンサーを選んだのは、半年ぐらい通ったアナウンサー教室で、「声がいい」って言われたことが理由。入社をTSSに決めたのは、その時アナウンサーの募集がそこしかなかったからなんだけど、入れたのは、本当に運がよかったとしかいようがないよね。

仕事の内容を教えてください。

午前中は、朝八時前に出社して、八時過ぎから番組（「ひろしま満点ママ!!」）の打ち合わせが始まります。リハーサルだとか最終的な詰めをやって、どたばたしているうちにオンエア。それから一時間半はノンストップです。午後からはニュースの録画や、ほかの番組のナレーションなどをやりま

す。

ロケ（スタジオ・セット以外での野外撮影）は要請があった時に出るって感じかな。場所は広島市内が多いけど、広島県内や時には海外にも行きます。最近では中国の大連にも行ったね。退社は早くても夕方五時くらい。ロケが入ると夜の九時とか、十時にもなりま

す。土日休みのはずなんです。ロケとかが入って一ヶ月全部休めるってことはないですね。

新人の頃、最初の三ヶ月ぐらいはフジテレビに行って、フジテレビの新人と一緒に研修をやりました。その研修からTSSに戻ってきて、まず最初にやったのは夜の天気予報、夜の録画のニュースかな。「ひろしま満点ママ!!」を担当する前は、野球の取材、ニュースキャスターなどもやりましたね。結構なんでもやりますよ。

仕事の良い面、悪い面は？

この仕事をしていて良かったと思うことは、普通では体験できないようなことを体験できること。

自分の声で自分の思いを自分の方法で表現できること。TVで喋るという行為は、すごく気持ちいい。今でも自分の思う通りに話せないことはありますけどね。

逆に辛いのは、生放送の場合、当たり前ですけど、喋ったことを取り消せないこと。結構小さなことで悩んだりするんです。それと経験上、この業界は口の悪い人が多いですからね。アナウンサーになりたての頃は、いつやめようかなんて考えてました。

アナウンサーになるために必要なことは？

一番欲しいのはバランス感覚です。あんまり明る過ぎても、暗すぎてもだめ。話す相手にも、その場の雰囲気にも合わせる必要があります。臨機応変さが必要です。

総合科学部にいった理由は？

入学したのは、総合科学部ができてまだ間もなかったころ。もともと新しいものが好きなのもあり、あまり深く考えずに受験しました。

「受身ではだめです。自分から外の世界に行ってみよう」

テレビ新広島アナウンサー

棚田 徹氏





スタジオにて
天野陽子アナウンサー（TSS）と共に

どんな学生時代でしたか？

所属していたサークルは体育会サイクリング部。高校時代に受験やら何やらで悶々としていたので、自由になろう！と思って入り、北は北海道から、南は九州までいろいろなところに行きました。富士山に自転車を担いで登ったこともあります。これを言うと、大抵の人はおどろくんですけど、TSSには他にも同じことをした人がすでにいます、逆に僕がビックリしました（笑）。

大学生活はサークル中心で、勉強なんてほとんどやってなかった。今思えば、もっと勉強しとけばよかったと思います。でもサイクリング部に入っていなかったら多分就職もできてないからね。やっぱり学生の時に何かを一生懸命やったっていうのは大きいです。

総合科学部について

自分を磨くという意味ではすごく有利な学部だと思います。社会の中では、あらゆる物事をどう結

びつけて考えるかという能力が大事だと思うんです。その力を養う上で、ある程度縛られずに、いろんなものを自ら選び、学ぶことができる環境が整っているのは、総合科学部の利点ではないでしょうか。

なんでも選べると言われたら逆にやるのがなかなか見つからないかもしれないですね。でも、何か一つ重点的にやって専門性を持った上で、他の事をやる。同じ深さで十のことはできません。一つ九のことがあって、あとは五とか、そういうほうがいいと思う。一つのことを深く学んでいる人って面白いけど、もっと面白いやつは他のことにも詳しいからね。

学生にアドバイスを

世界とのつながりをもつことですね。ただアンテナをたてるだけでなく、自分から外の世界に行つて欲しい。そうしないと自分の世界は広がっていかない。受身ではだめです。何か一つのことを自分の世界だけで掘り下げていくのではなく、それに加えて自分の知ら

ない新しい世界と接触してコミュニケーションをとる。これが大切だと思います。

（担当 17生 斎藤 佑亮）

このコーナーは他、16生 森尾陽一、17生 藤山 彩、村上 真理恵が担当しました。

ひろしま満点ママ!!とは？

「ひろしま満点ママ!!」は、TSS（テレビ新広島）で毎週月曜日〜金曜日の九時五十分〜十一時二十五分に放送されている生活情報番組。

棚田徹アナウンサーがキャスターを務める。

<http://www.tss-tv.co.jp/>

広島大学文学部・大学院社会学研究科の卒業生（平成七年度学部入学）、水木祥子さんに、平成十八年一、二月にひろしま美術館で開かれる「プラト美術の至宝展」の準備の合間を縫って、取材させていただきました。

仕事の内容について教えてください。

ひろしま美術館で学芸員をしています。学芸員の仕事には、美術作品の収集、保存、研究、教育普及などがあります。普段は、美術館で開かれる展覧会の準備をしていることが多いです。

仕事のやりがいや苦労は？

この仕事は、研究職であり、イベント業でもあり、先生、執筆者、時にはデザイナーにもなれます。様々なことが経験できるのが楽しいですね。展覧会で作品解説をしたり、講演会をしたりした時、お客様から「いい展覧会だった」という声を聞くと、やりがいを感じます。

逆に苦労は、当館の場合は学芸員が三人と人数が少ないため、ひとりで同時にいくつもの展覧会の準備をかかえることですね。時々

ひとつの展覧会に集中できるというのにも思うこともあります。また、新聞や雑誌、展覧会図録などに原稿を書く機会がかなりあるので、締め切りが重なる時、それに追われる小説家の気分にもなれます（笑）。

なぜ今の仕事を選ばれたのですか？

高校生の時、歴史の授業と、絵を見るのが好きだったので、その両方が生かせる職業として学芸員を目指しました。

現在の目標は？

自分で一から企画をした展覧会をすることです。例えば、この春に開催した「りんごの秘密展」のような企画。これは私が就職する前から先輩たちによって温められてきたものです。りんごは「アダムとイヴ」やギリシャ神話にも登場し、セザンヌや岸田劉生などが好んで描いた果物なのですが、これまで「りんご」という視点で展覧会はされたことがなく、面白い視点だという評価をいただきました。そういう一風変わった視点で作品を見直すことが出来る展覧会を開いてみたいです。

大学院に進学した理由は？

文学部では、ルネサンスの社会とか、芸術家について歴史学的なアプローチで学んでいましたが、学芸員を目指すならもっと絵の内容に踏み込んだ形で勉強したいと思うようになりました。ちょうど総合科学部に芸術学をご専門にされていた先生がいらしたので、その先生に相談して、大学院に進むことにしました。ただし、私が美術館に就職して以降、ルネサンス美術の展覧会は、今回の「プラト美術の至宝展」が初めてです。ルネサンス時代の作品は傷みやすいものが多く、日本に持つてくるのが難しいので、展覧会が開かれること自体すごいことですが、それが今回自分の職場で出来ることになって、すごく嬉しいです。

これまでは、「スカンディナビアの風景画展」や「棟方志功展」「小磯良平展」など、学生の時学んでいた専門分野とは違う展覧会を担当してきました。そのため、展覧会ごとに勉強が必要になります。が、大学で学んだ基礎的なことは、今でも役に立っていると思います。

先生、執筆者、時には デザイナー、小説家

ひろしま美術館学芸員

水木 祥子さん





ひろしま美術館のマスコット
「ゴッホくん」

学生時代の思い出はなんですか？

所属していた大学祭実行委員会で、大学祭を運営したことが一番楽しい思い出です。大学祭当日の高揚感も忘れられません。仲間たちと騒ぎながら学祭と一緒に作りあげていくことが楽しかったですね。広島市内から通っていたので、準備をしていたときはいつも最終の電車で帰っていました。

学生時代にやっておけばよかったと思うことはありますか？

今は休みの日も原稿を書いたりして、休みがつぶれてしまうこともあるので、学生時代の時間があるうちに旅行に行ったり、社会活動に参加したり、いろいろやっておけばよかったと思うことはあります。

学生へのアドバイスをお願いします。学芸員は狭き門といわれますが…。

学芸員を目指している方にアドバイスをするなら、ひとつは様々な美術館に行つて、作品を見ることですね。あとは、博物館実習や美術館のボランティアに参加すること。私も学生時代に広島県立美

術館で収蔵作品のギャラリートークをするボランティアをしていたのですが、そこでは、彫刻、洋画、海外作品、日本画、工芸、と幅広い分野を学ぶことが出来ました。また、昔から人前で話すのは苦手なのですが、そのときついた度胸が今でも少しは役に立っているかもしれません。

今年の博物館実習には、当館にも二十五名いらつしやいました。その中で本気で学芸員を目指している方は二、三人程度でしたでしょうか。狭き門といわれていますが、募集がないわけではありません。インターネットなどに募集が掲載されていることもあります。積極的に美術館に足を運び、学芸員と仲よくなるのもいいことだと思います。

この仕事には、語学力もある程度必要です。展覧会図録の製作では、海外の学芸員が書いた原稿を翻訳することもありますし、海外に作品を貸し出す際には、作品と一緒に、相手側の担当者と一緒に点検をすることもあります。もちろん、逆にこちらが海外の作品をお借りする場合には、海外の学芸員や修復家がいらして、一緒に作品を点検します。

学芸員に限らず、将来やりたい

ことが見つかっている人なら、理想に近づくなら何をするのが必要なのか、どういった手段があるのか、それらをまず探して、それにむかって突き進んでいけばいい。まだやりたいことが見つからない方なら、学生の間は、アテナを広げて、いろいろ試してみる時間があってもいいと思います。

最後に、美術館での絵の楽しみ方を教えてください。

当たり前だけど、やっぱり美術館に来たら本物があって、図版とは大きさもちろん違うし、タッチとかもはっきり見えますよね。美術館では、そういった実物を見る面白さがありますよ。

(担当 17生 杉本 千明)

奨ひろしま美術館

フランス印象派を中心としたヨーロッパ近代美術と明治以降の日本の油彩画を所蔵。

広電「紙屋町東」電停または「紙屋町西」電停から徒歩約三分、広島バスセンターから徒歩約三分。

<http://www.hiroshima-museum.jp/>